

スーパーマーケット景気動向調査

2020年6月調査結果（5月実績）
（2020年6月22日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

6月調査（5月実績）結果概況

景気判断DIは現状・見通しともに前月水準で推移

5月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI現状判断は、前月から-1.9の52.7、見通し判断は前月から-2.3の36.2となり、共にほぼ前月水準で推移し、現状判断は高水準を維持した。

経営動向調査では、4月とほぼ同様の傾向が継続している。売上高DI、収益DIは共に小幅に上昇し20台を記録した。買物頻度の抑制により来客数DIは低下したものの、食品需要の高まりや特売の自粛などで客単価DIは高水準を維持している。

カテゴリー動向調査では、中食需要の減少に加え、行楽や行事の中止、バラ売り販売の自粛の影響があった惣菜カテゴリーDIのみがマイナスとなった。在宅時間の増加により手作り（調理）需要が増加しており、それ以外のカテゴリーDIは二桁のプラス値となった。マスクや衛生用品、家庭用品が好調な非食品DIも引き続き高水準を記録した。

景況感調査は、景気判断DIや消費者購買意欲DIの現状判断が高水準を維持する一方で、見通し判断については悪化が継続している。その一方で、店舗周辺地域景気判断DIは下げ止まり、落ち着きもみられてきた。（長期傾向についてはp11参照）

中旬以降緊急事態宣言が解除され、学校再開や在宅勤務の緩和などポストコロナの生活がスタートした。感染拡大の予防対策、外出自粛緩和による在宅時間の減少が食品需要に及ぼす変化への対応など、生活インフラとして業界に対する注目や要望はこれまで以上に大きくなると予想される。

景況感調査

現状判断

景気判断DI
当月：52.7 (-1.9)
前月：54.6

消費者購買意欲DI
当月：62.7 (-6.4)
前月：69.1

周辺地域 競合状況DI
当月：48.5 (+1.6)
前月：46.9

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：42.2 (+2.6)
前月：39.6

見通し判断

景気判断DI
当月：36.2 (-2.3)
前月：38.5

消費者購買意欲DI
当月：42.1 (-7.2)
前月：49.3

周辺地域 競合状況DI
当月：42.7 (-0.9)
前月：43.6

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：34.4 (+0.9)
前月：33.5

経営動向調査 経営状況

売上高DI
当月：25.8 (+1.5)
前月：24.3

客単価DI
当月：32.7 (+1.7)
前月：31.0

来客数DI
当月：-9.7 (-8.0)
前月：-1.7

収益DI
当月：26.5 (+4.3)
前月：22.2

販売価格DI
当月：11.3 (+1.1)
前月：10.2

生鮮品仕入原価DI
当月：8.4 (-1.3)
前月：9.7

食品仕入原価DI
当月：6.8 (-3.1)
前月：9.9

カテゴリー動向

青果DI
当月：30.6 (-0.2)
前月：30.8

水産DI
当月：20.5 (+7.2)
前月：13.3

畜産DI
当月：32.4 (-2.2)
前月：34.6

惣菜DI
当月：-9.9 (+8.4)
前月：-18.3

日配DI
当月：28.2 (-1.3)
前月：29.5

一般食品DI
当月：22.8 (-5.9)
前月：28.7

非食品DI
当月：21.5 (-1.1)
前月：22.6

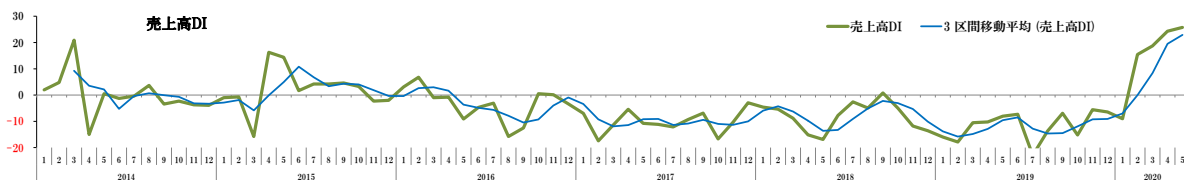
※DI値は前年同月との比較／○内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

前月から小幅に上昇、引き続き大幅なプラス値を維持

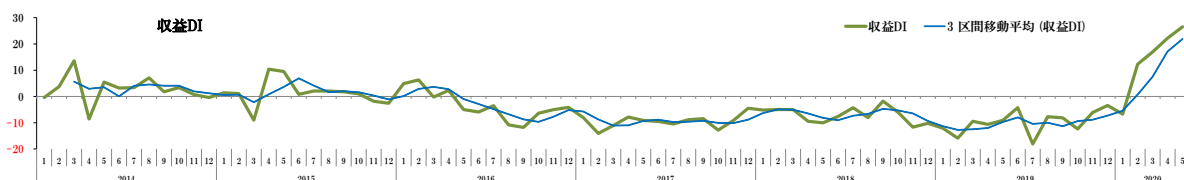
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	7.7	8.2	6.0	35.5	42.6	24.3
売上高 (当月)	6.1	5.5	9.8	36.6	42.1	25.8



2. 収益DI

前月から上昇し、引き続き大幅なプラス値を維持

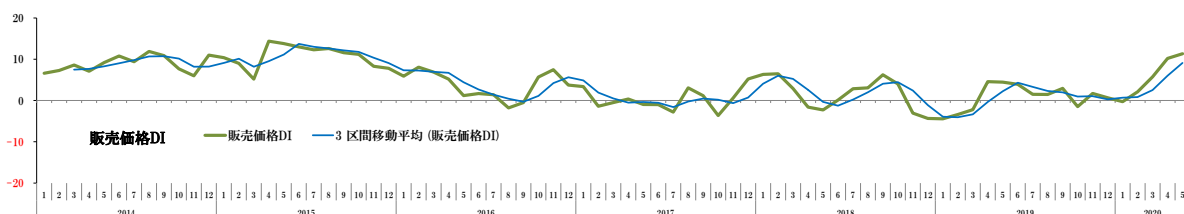
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	6.1	8.4	11.7	38.0	35.8	22.2
収益 (当月)	4.3	5.6	10.5	38.9	40.7	26.5



3. 販売価格DI

前月から小幅に上昇し、二桁プラスが継続

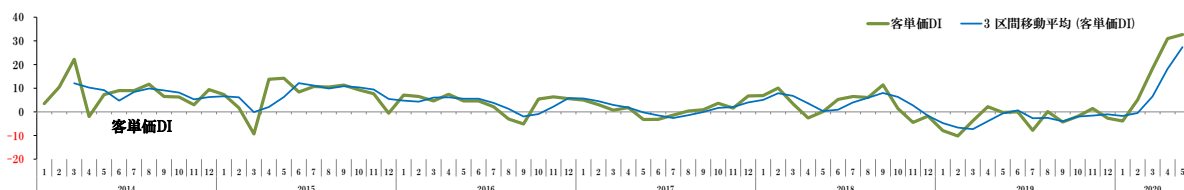
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.6	3.9	55.2	34.8	5.5	10.2
販売価格 (当月)	0.6	3.1	55.2	32.5	8.6	11.3



4. 客単価DI

前月から小幅に上昇し、引き続き大幅なプラス値を維持

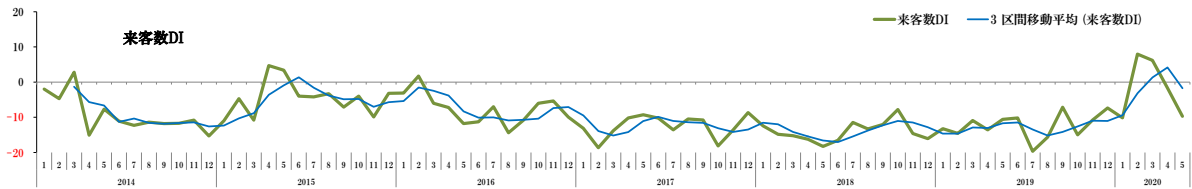
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	0.6	4.4	7.8	45.0	42.2	31.0
客単価 (当月)	0.6	4.9	7.4	37.0	50.0	32.7



5. 来客数 DI

当月下落し、マイナス幅を拡大

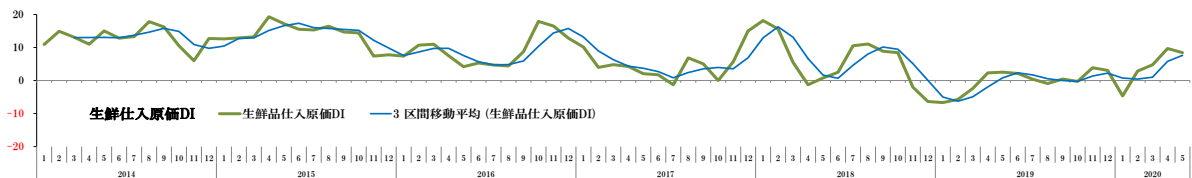
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	10.6	30.2	23.5	26.8	8.9	-1.7
来客数 (当月)	19.8	30.9	22.8	21.6	4.9	-9.7



6. 生鮮仕入原価 DI

プラス幅縮小も、5か月連続でプラス圏を維持

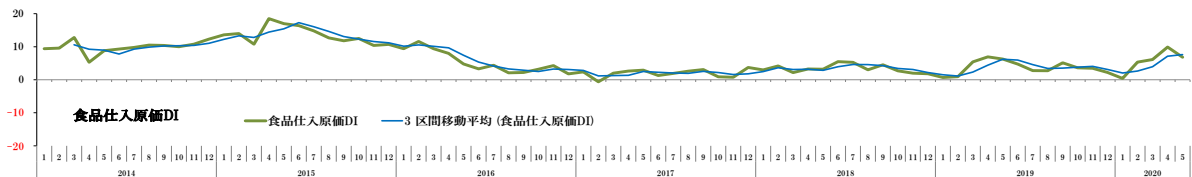
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	1.1	10.1	46.6	33.1	9.0	9.7
生鮮仕入原価 (当月)	0.6	9.4	53.1	29.4	7.5	8.4



7. 食品仕入原価 DI

プラス圏で底堅い推移が続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	0.6	2.8	62.0	25.7	8.9	9.9
食品仕入原価 (当月)	0.6	5.0	66.5	22.4	5.6	6.8

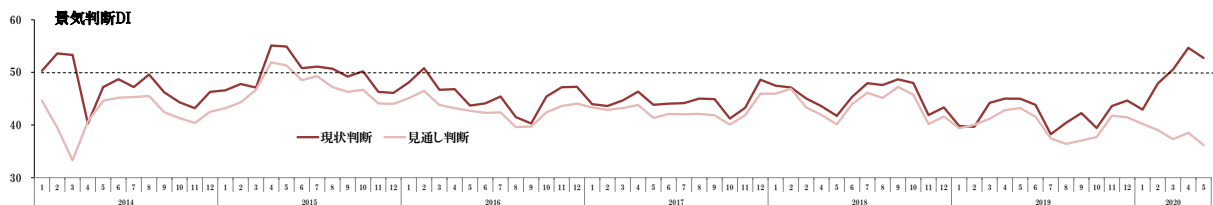


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景気判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

現状、見通しともやや悪化するも、現状判断は50を上回る水準を維持

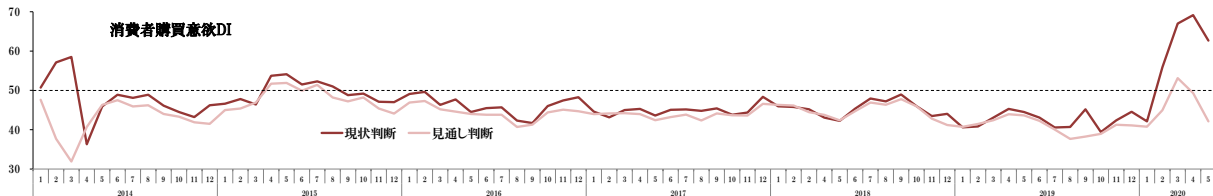
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	9.8	18.6	25.7	35.0	10.9	54.6
【現状】景気判断 (当月)	8.5	16.5	36.6	32.3	6.1	52.7
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	16.9	33.3	30.1	18.0	1.6	38.5
【見通し】景気判断 (当月)	14.1	39.9	34.4	10.4	1.2	36.2



2. 消費者購買意欲 DI

現状、見通しともやや悪化するも、現状判断は60代の高水準を維持

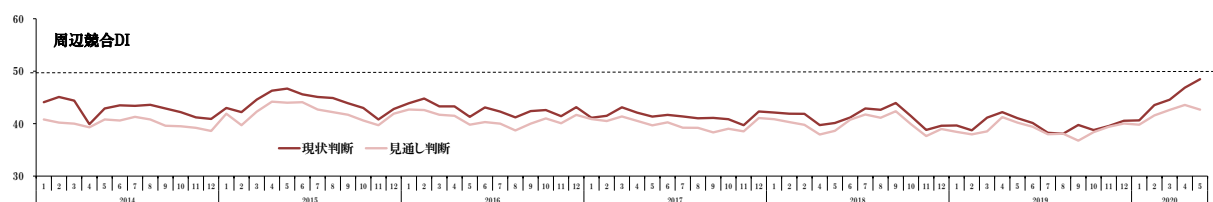
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	3.8	7.1	19.7	47.5	21.9	69.1
【現状】購買意欲 (当月)	3.0	10.4	29.3	47.6	9.8	62.7
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	7.7	24.6	34.4	29.5	3.8	49.3
【見通し】購買意欲 (当月)	10.5	32.1	38.3	16.7	2.5	42.1



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断は改善も、見通し判断は小幅に悪化

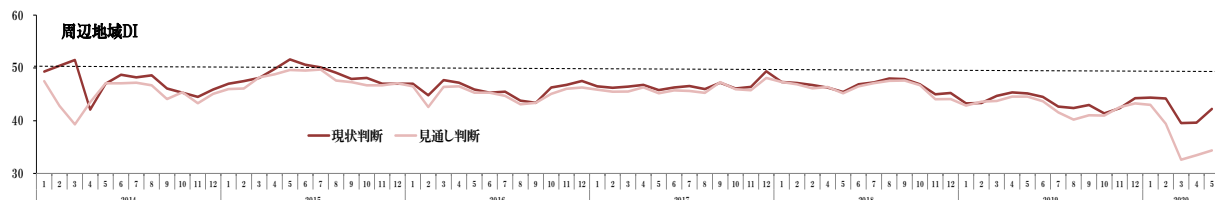
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	4.9	12.0	74.9	7.1	1.1	46.9
【現状】競合状況 (当月)	3.0	9.1	80.0	6.7	1.2	48.5
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	5.5	19.7	70.5	3.8	0.5	43.6
【見通し】競合状況 (当月)	4.3	24.4	68.9	1.2	1.2	42.7



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断はやや改善も、見通しは厳しい判断が続く

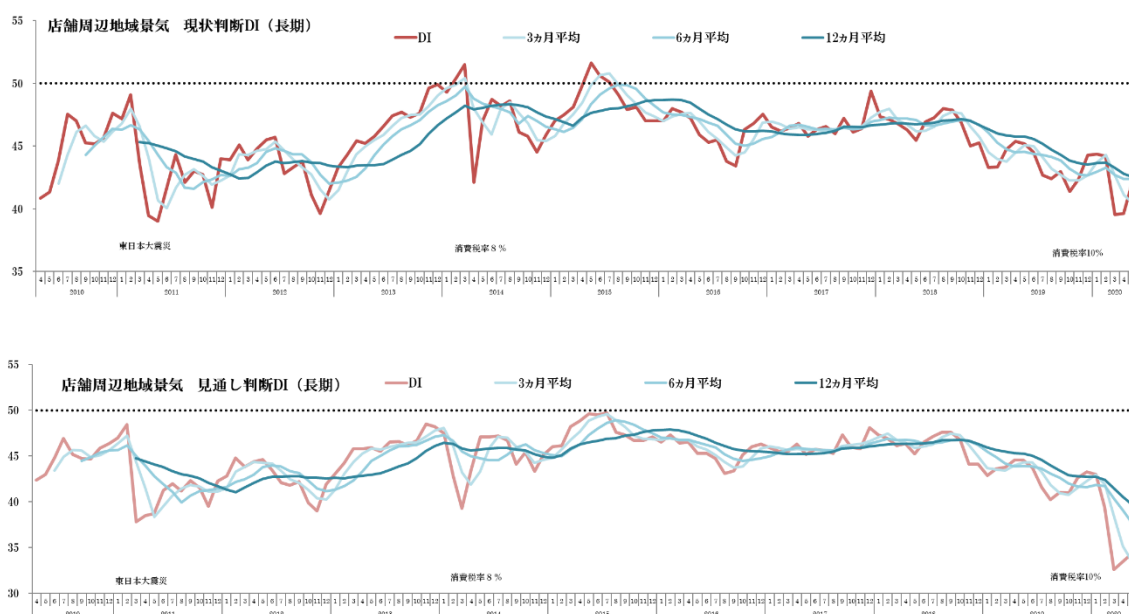
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	13.7	26.8	49.7	7.1	2.7	39.6
【現状】地域景気 (当月)	8.5	26.8	53.7	9.1	1.8	42.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	19.1	35.0	39.3	6.0	0.5	33.5
【見通し】地域景気 (当月)	14.7	38.0	42.9	3.7	0.6	34.4



・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

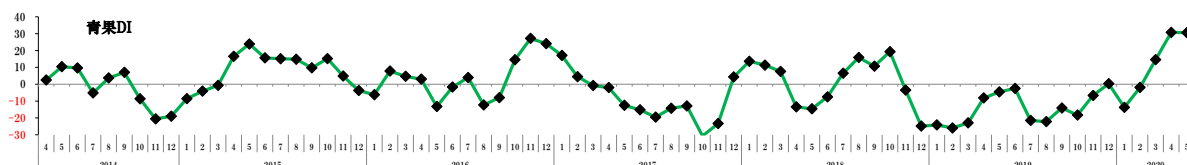
しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。20年2月から新型コロナウイルスの影響により大幅な低下がみられたが、5月にはやや持ち直している。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：30.6（かなり好調）

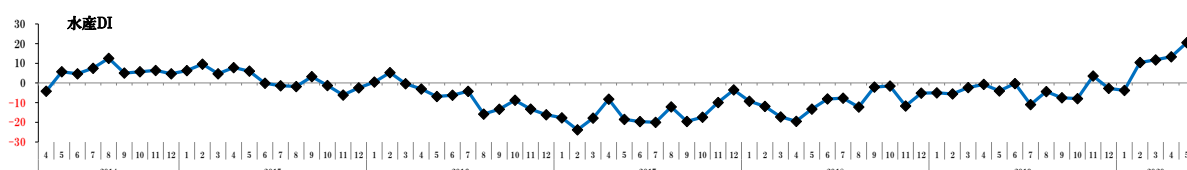
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	3.4	2.8	8.4	38.2	47.2	30.8
青果（当月）	2.5	3.2	9.6	38.9	45.9	30.6



外出自粛による家庭内消費の増大により、需要が高い状況が続くなか、青果相場が大型野菜を中心に高値で推移したことで一品単価が上昇し、全体としてかなり好調となった。保存期間の長いにんじん、玉ねぎ、イモ類等の土物類の動きがよかった。上旬は全国的に気温が高くトマトやレタスなどサラダ向け野菜が好調とのコメントが多いが、中旬以降は前年より気温が低くなった地域もあり好不調がわかれた。需要が大幅に減少した花カテゴリーは不振となった。果物類は、輸入果物であるバナナやキウイフルーツが好調とのコメントが多い。スイカやメロンはサラダ類同様に地域の気温差により好不調が分かれている。

2. 水産DI：20.5（かなり好調）

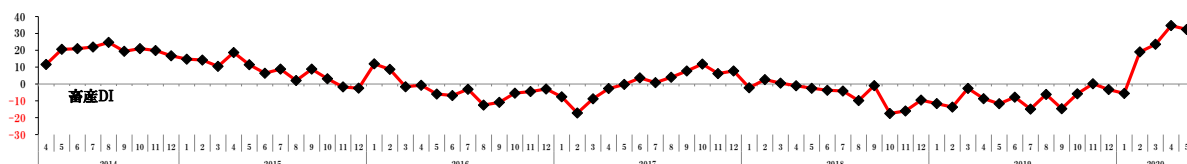
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	6.2	15.2	19.1	38.2	21.3	13.3
水産（当月）	3.2	12.1	15.9	36.9	31.8	20.5



外出自粛による家庭内消費の増大により需要が高い状況が続くなか、外食営業自粛などの影響で一部ブランド鮮魚の相場に下落がみられ、好調となった。保存可能なむき海老やシーフードミックス等の冷凍商材や塩干類、タコなどの売れ行きがよかった。初ガツオは不漁で入荷量が少なく不振となった。刺身類は、一部に生食を敬遠する動きもみられ好不調まちまちの結果となった。

3. 畜産DI：32.4（かなり好調）

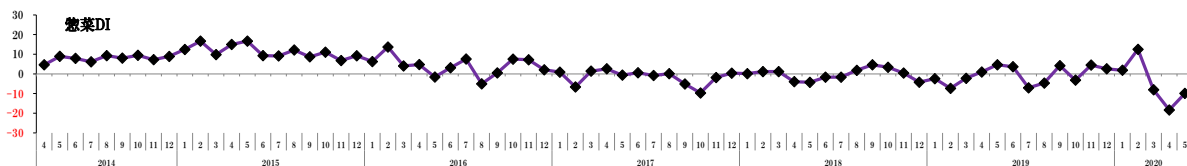
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	3.4	1.1	8.4	27.9	59.2	34.6
畜産（当月）	3.2	1.9	10.9	30.1	53.8	32.4



外出自粛による家庭内消費の増大により需要が高い状況が続くなか、GW期間の焼肉やBBQ需要は減少したものの、牛・豚・鶏肉、ソーセージやハムなどの加工肉すべてのカテゴリーが好調となった。牛肉は外食営業自粛などの影響で、特に和牛相場の下落がみられたことで高単価牛肉が好調となった。豚や鶏肉の一部には欠品もみられたが、炒め物や餃子用など調理用商材の売れ行きがよかった。

4. 惣菜DI：-9.9（やや不調）

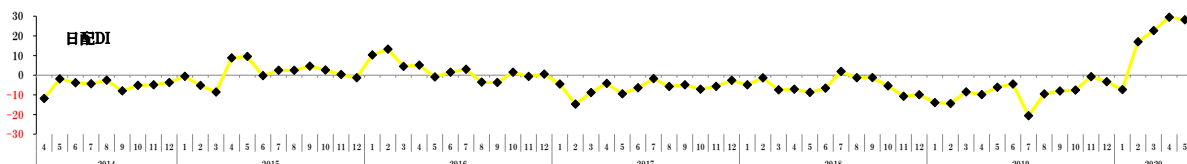
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	24.4	42.6	16.5	14.8	1.7	-18.3
惣菜（当月）	16.7	34.0	26.9	17.3	5.1	-9.9



外出自粛による行楽向け、イベント中止による大人数用惣菜、家庭内調理機会の増加による中食需要の低下、ばら売り販売中止の影響を受け、やや不調となった。引き続き宅飲み機会の増加でおつまみ関連惣菜の動きがよかった。上旬は前年に比べて気温が高く涼味関連の動きがよかった。生食を敬遠する消費者もみられ、寿司類は好不調がわかれている。外出自粛の緩和が行われた月後半からやや持ち直しの動きもみられた。

5. 日配DI：28.2（かなり好調）

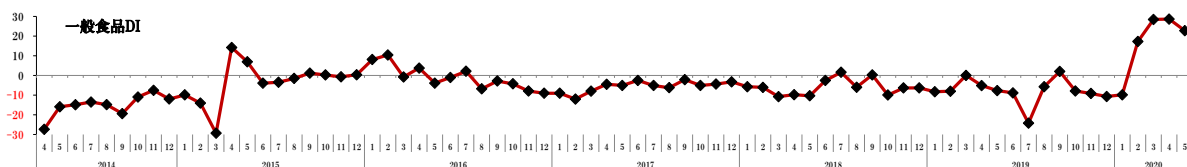
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	2.8	5.1	10.2	35.0	46.9	29.5
日配（当月）	3.2	2.5	12.7	41.4	40.1	28.2



先月と傾向は大きく変わらず、家庭内消費需要が大幅に増加しかなり好調となった。牛乳やバター、チーズなどの乳製品をはじめ、保存可能な冷凍食品やチルド麺やチルドピザ、パン類などが好調となった。免疫力アップとしてヨーグルトや納豆、キムチなど発酵食品が特に好調であり、一部店舗では納豆やバターに欠品が続いた。生クリームなどはお菓子づくりの材料が好調とのコメントもみられた。前年との気温差によりアイス類は動きが悪かった。

6. 一般食品：22.8（かなり好調）

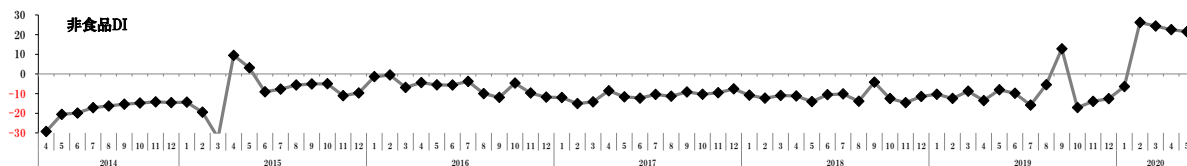
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	4.5	4.5	10.7	32.2	48.0	28.7
一般食品（当月）	5.0	6.9	15.7	36.5	35.8	22.8



外出自粛により家庭内消費需要が大幅に増加しかなり好調となったが、手作り需要の増大を指摘するコメントが多かった。日持ちする食品として（米、袋麺やカップ麺、レトルト食品、パスタやパスタソース、乾麺・めんつゆ、シリアル、菓子、缶詰）、家庭内での調理用粉物（ホットケーキやお好み焼きなど）や調味料など、ほぼすべてのカテゴリーで非常に好調に推移し、需要の急増により一部商品には、品薄や欠品により機会ロスが発生した。酒類は、行楽需要は減ったものの「家飲み」需要の高まりにより伸びており、チューハイ、サワー類、ワインなどが好調となった。行楽需要の減少や休校の影響による弁当材料向けの食材、外出時の購入機会が多いガム・タブレット類などは動きが悪かった。

7. 非食品DI：21.5（かなり好調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	8.0	7.5	16.1	23.0	45.4	22.6
非食品（当月）	7.3	9.3	17.9	21.2	44.4	21.5



マスクの入荷がはじまり特需が発生した。感染対策として、ハンドソープ、ハンドクリーム、除菌剤、漂白剤、ウェットティッシュ、炊事手袋などが好調に推移した。調理機会の増加により、ラップや保存パックなどの調理補助品、お菓子づくり用品も好調に推移した。また、在宅時間が増えた影響で、台所洗剤、住居用洗剤、入浴剤などの売上も好調となった。トイレトーパーやティッシュペーパーなど紙製品の需要も引き続き高い。外出機会の減少により、紙コップや紙皿、レジヤシートなどの行楽用品は不振だった。

カテゴリ別DIによる好不調判断

かなり好調：～20 好調：20～10 やや好調：10～0
 やや不調：0～-10 不調：-10～-20 かなり不調：-20～

2020年6月調査（5月実績）キーワードTOP3

1. 巣ごもり消費（外出自粛による家庭内消費の増大）
2. 手作り需要の増大
3. チラシや特売の自粛

（参考）2019年6月調査（5月実績）キーワードTOP3

1. GW期間（来客数に地域差大きい、祝賀ムード）
2. 天候要因（気温上昇、好天）
3. GW後の消費低迷

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

5月実績速報版 180社
 4月実績確報版 186社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp